

こいのぼりが、清水川への思いを伝えてくれた

金谷扇町に流れる清水川を多くの人に知ってもらおうと、14年以上活動する杉本さん。川沿いに700匹もの小さなこいのぼりを、仲間と共に飾り、見る人を楽しませていきます。

【美しい情景を再び】

杉本さんは、所属する「こい公園愛護会」に、市から公園の清掃依頼があったことを受け、川にこいのぼりを飾り付け始めたと話します。

「会では月に1回、清水川こいの広場の清掃を行います。仲間と話し合い、広場だけでなく、汚れた清水川もきれいにしようと決めました。70年ほど前は、澄んだ川があちこちに流れ、さまざまな魚がいました。会員は皆、川で遊び、川と共に育った世代。再び美しい小川を見たかったんです。そこで、まずは川が存在を知ってもらえればと、川沿いにたくさんのおこいのぼりを飾

り、5月の節句をお祝いすることにしました。会の中に実行委員会を設置した平成18年から、毎年取り組んでいます」

【飾り付けにはひと工夫】
こいのぼりは当初、100



清水川鯉のぼり実行委員
杉本虎雄さん(金谷扇町)

のガードレールの柱にくっついて行きます。初めは川に入り、対岸まで一本ずつひもを渡していました。それでは手間がかかるので、ロープを輪にして兩岸にかけ、片側から輪をたぐり寄せるよう工夫したんです。

濁りのないきれいな小川に生まれ変わったと、杉本さんは微笑みます。

「今の美しさがあるのは、川への関心が広がり、思いを地域で共有できたからではないでしょうか。昨年初めて、飾り付けの協力を町内の回覧板でお願したところ、なんと20人以上が集まりました。多くの人の賛同と協力が、活動への大きな励みにもなりました。みんなで一つのことを成し遂げる大切さ、人と人との輪の素晴らしさを感じました。何よりうれしいのは、こいのぼりを眺める園児たちのうれしそうな表情です。満面の笑みで『すごくきれい！』なんて言われたら、やめるにやめられませんね。平成28年には『しまだ市民遺産』にも登録されました。今では、川底が見えるほど澄み、コイの泳ぐ様子も一緒に楽しめますよ。取り組みを始めてよかったです、本当に思います」

美しく透き通る流れの上、たゆたう無数のこいのぼり。清水川には、子どもたちの健やかな成長を願う、住民の思いが溢れています。



約200mにわたり、ずらりと並ぶたくさんのこいのぼり

Shimadajin File #100

島田 Story 人田